

# 要求仕様書がない！！ それでもテストはできるのだろうか？

ソフトウェアテストにお困りではありませんか？

- 要求仕様書が無いのにテストできるの？
- 要求仕様が散在していてまとまりがない。
- 要求仕様書は在るけど、  
当たり前なことは書いていない。  
そのテストもしてくれるだろうか？

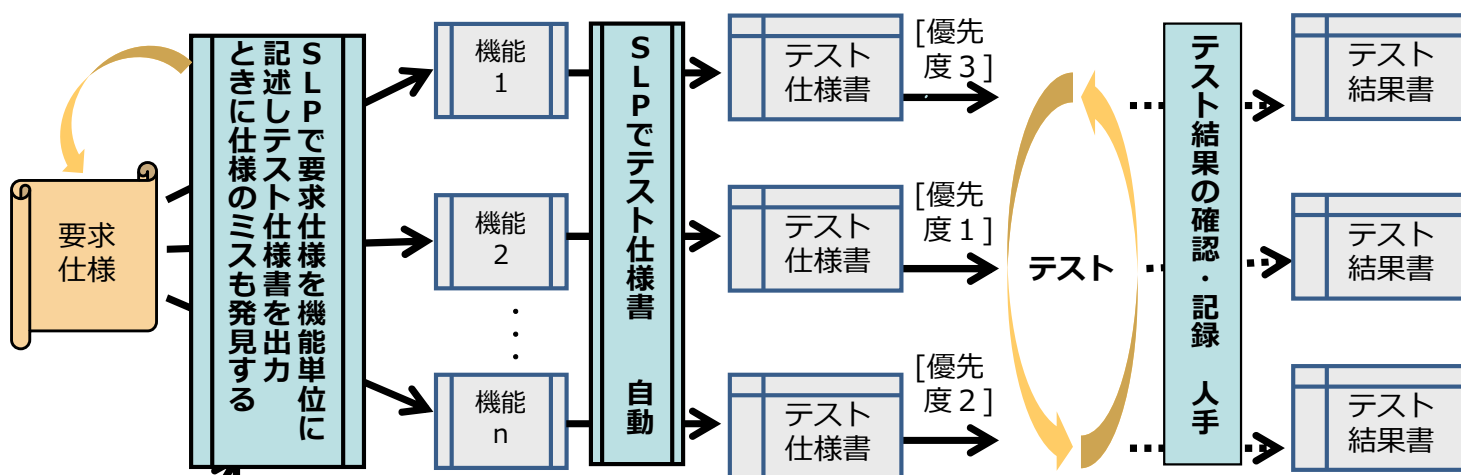


ソフトウェアテストをこのように提案します

**【それは、SLP(※1)を使ったテスト(※2)です】**



[要求仕様] → [機能抽出 (SLP+手作業)] → [テスト仕様書出力 (SLPで自動出力)] → [評価優先度決定 (手作業)] → [テスト実施]



SLPでソースを読み込み、仕様掘り出しをする

要求仕様が未整理で、メモ的仕様が仕様書のあちこちに散在している場合には、SLPでソースコードを読み込み、それらの資料を参考にしながら、仕様を整理・確定します。



ソースコード

※1： SLPは、当社が開発した要求仕様記述/検査ツールです。

※2：ここで「テスト (test)」とは、基準があり、その基準に結果が適合しているか否かを判断することを指します。当社では「検証(verification)」も同義と考えます。なお、ソフトウェアテストには、検証と妥当性確認の両方を含むとする考えがありますが、当社では前者のみをテストと考えております。妥当性はお客様固有のドメイン知識に依存するものと考えます。ただ、当社でもいくつかの分野のドメイン知識は持っております。その場合には、この妥当性に関してのご意見を申し上げることはできます。また、ソフトウェアやコンピュータなどに関する非機能要件的な事項に関して、専門会社として申し上げることはできます。

## 第三者検証の信頼性

いうまでもないことですが、テスト（検証）を開発当事者以外の第三者に託すことは、開発者の思い込みから解放され、テストが信頼のおけるものになります。

## テストの特長と工程

当社のテストは、SLPを活用することが特長です。SLPを活用することで、テストの基準となる要求仕様は正確なものとなります。基準が正確ですから、SLPから出力されるテスト仕様書も正しい基準となります。また、テストの工程は次のようになります。

テスト工程	概要	成果物
テスト計画	お客様のテストの目的やテスト品質、納期、コストなどのご要望をもとにテスト計画を作成し、お客様のご理解を得ます。	テスト計画書
テスト設計	テスト設計の主な作業は、要求仕様の論理検証を行いながら、各開発工程のテスト仕様書を作成することです。これは要求仕様書が基準となります。 当社ではこの作業をSLPで行います。要求仕様書から機能を抽出し（人手）、機能を論理的に記述します（半自動）。この作業は、開発工程単位に行うことができます。開発工程単位に記述の粒度を決め、工程ごとの設計文書の論理検証と、工程ごとのソフトウェアの実施検証を行うことができます。 論理検証は自動で行われ、実施検証用のテスト仕様書は自動で出力されます。	論理検証 テスト仕様書
テスト実施	テスト仕様書に基づき、テストを実施します。このテスト結果と、テスト仕様書に記載された期待結果とを照合します。	テスト実施結果 (テストログ)
結果報告	テスト結果報告書を作成します。不具合、不明点の調査依頼、また必要に応じ仕様の改善提案を行います。	テスト結果報告書

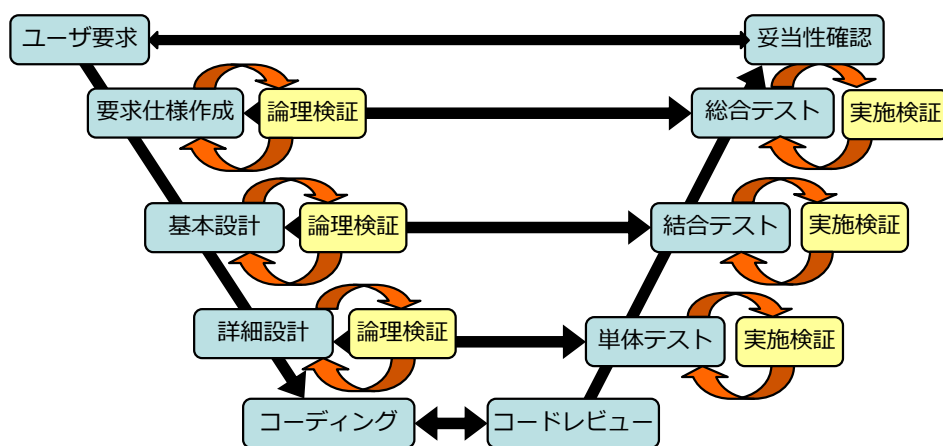
## 非機能要件の明示化、テスト仕様書の最適化、要求トレース

テストが正しいか否かは、あくまでも要求仕様を照らしてのことです。ただ、この要求仕様はすべて書かれているとは限りません。「当たり前」のことは、割愛されます。

しかし、この当たり前のことを検証するのがテストです。SLPは要求内容の当たり前のことや常識的なことを明示的に書かせるように誘導します。「非機能要件」に関しても同様です。明示化されて、はじめてテストが可能です。

なお、テスト条件は、単純に全ケースを網羅するのではなく、同じテストの繰り返しを防ぐため、テスト条件の組み合わせを最適にしています。テスト仕様書にはこのようなテストの最適な組み合わせが出力されます。

また、SLPは要求仕様項目のトレースを可能にします。



## 反復型開発にも対応

スクラムなど「動き」を確認しながら開発を進めて行く反復型の開発は、要求仕様が後回しにされがちです。しかし、ここでも第三者の検証が不可欠です。このとき検証の基準となるものは要求仕様書です。イテレーション（開発周期）単位で要求仕様書をまとめながら、次のステップに進むことをお勧めします。SLPを活用すれば、工程単位の論理検証と、テスト仕様書の作成は自動的に行われます。